

# 保育者養成における授業方法の改善に関する研究Ⅲ

—保育の内容「環境」領域に着目して—

松 下 由美子・小 松 陽 子・松 下 幸 司\*

(香川短期大学・\*香川大学)

## 1. はじめに

これまで筆者らは、前々報<sup>1)</sup>において、保育者養成課程における授業を受講する学生が、主体的かつ他者と協働して課題に取り組めるよう改善を試みた授業内容・方法（グループで行う『演習発表』）について報告した。その結果、受講学生は、他者と協力・協働して課題に取り組む大切さやグループの一員としての自己の責任、自分たちの言葉で伝えるよさ等を感じていた。また、自ら「調べる」ことで知識が増え、新たな発見の喜びを感じられたことが、「授業への満足度」にもつながっていた。

また、前報<sup>2)</sup>では、保育者の専門性の中核である「子ども理解」に焦点を当て、これまでの授業や教育・保育実習の実践から身に付けた「子どもを理解する力」としての「子どもの行動を予想する力」の実態について調査・分析すると共に、今後の授業改善のための課題について検討した。そこでは、保育活動のねらいや課題を適切に理解した上で、子どもの言動を予想したり、保育者の支援や働きかけの内容について検討したりすることを課題とする演習活動や、年齢ごとの発達の特性をふまえた子ども理解と保育者の支援との関わりについて再確認を促す演習活動を組み入れるなどの授業改善が必要と考えられた。

そこで、これまでに明らかとなった授業改善の課題に取り組むための基礎研究として、幼稚園教諭や

保育士等に求められる知識・技能や、保育を行う上での保育者の役割を捉えるとともに、保育者を目指す学生の乳幼児期の経験や知識等に関する実態についての調査・分析を行うこととした。

「環境」領域の内容と保育士養成課程・幼稚園教諭養成課程における授業の在り方や学生の知識・技能の現状に関する研究については、いくつかの先行研究を見出すことができる。例えば、渡部ら(2018)<sup>3)</sup>は、保育者養成課程に在籍する学生を対象に、昆虫の写真に対して昆虫の名前と生育環境を回答させた上で、「実物を見たこと」「捕まえたり触ったりしたこと」「本で見たこと」について経験の有無を回答させることによって、昆虫に関わる経験と標準和名・生息環境の理解度について検討している。また上原(2020)<sup>4)</sup>は、学生を対象に質問紙調査を行い、哺乳類・鳥類・魚類・爬虫類・両生類・昆虫類・その他の小さな生き物について、過去の飼育経験を問うとともに、「触れることができるもの」「就職後の園での飼育の希望」との関連について検討している。一方、及川ら(2019)<sup>5)</sup>は、地域子ども会や祭事などの地域行事への参加の有無について学生に質問紙調査を行い、学生が地域と関わる経験の実態をもとに、地域資源を保育教材として活用することについて検討している。

これらの先行研究は、領域「環境」で取り扱う内容のうち、「動植物に関すること」「地域に関すること」についての経験など、特定の内容に関する学生の経験の実態を明らかにしたものであり、領域「環境」で取り扱う内容について、近年の学生の経験の実態を包括的に捉える調査研究を見出すことは難しい。(例えば、栗原(2005)<sup>6)</sup>は、学生の幼児期の「遊び」の思い出について自由記述の回答を求め、

令和2年11月30日受理

連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地

香川短期大学 子ども学科

TEL 0877(49)8060 FAX 0877(49)5252

Email matsushita@kjc.ac.jp

「遊び」記憶の特徴について分析している。栗原の研究においては、領域「環境」以外の領域の遊びが含まれている（造形的遊びなど）とともに、調査実施年が2003年とされている。）

一方、幼稚園教諭養成課程・保育士養成課程における領域「環境」を取り扱う授業実践と検討について、いくつかの論文を見出すことができる（例えば青山（2020）<sup>7)</sup>、片山（2019）<sup>8)</sup>、土井（2018）<sup>9)</sup>など）。しかしながら、それら領域「環境」を取り扱う保育者養成課程における授業実践と検討においては、領域「環境」に関する学生の過去経験について事前調査と検討がなされていない。

そこで、本研究では、領域「環境」で取り扱う内容について、学生の経験の実態を包括的に捉える調査を基礎的研究として実施することにより、今後の幼稚園教諭養成課程・保育士養成課程における領域「環境」を取り扱う授業実践における可能性と課題を明らかにすることを目的とした。

#### 1-1. 保育者に求められる知識・技能

「幼稚園教育要領」<sup>10)</sup> および「保育所保育指針」<sup>11)</sup>には、保育・教育に関わる内容の領域としての「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5つの領域が示されている。そこでは、各領域の「ねらい」及び「内容」が示されており、このうち「ねらい」とは、子どもが幼稚園や保育所において安定した生活を送り、充実した活動ができるように、幼稚園教育や保育を通じて「育みたい資質・能力」を子どもの生活する姿から捉えたものである。また「内容」とは、「ねらい」を達成するために、子どもの生活やその状況に応じて保育者が適切に行う事項と、保育者が援助して子どもが環境に関わって経験する事項を示したものである。

教師の役割として、「幼稚園教育要領解説」<sup>12)</sup>においては、①幼児が行っている活動の理解者としての役割、②幼児との共同作業、幼児と共鳴する者としての役割、③憧れを形成するモデルとしての役割や遊びの援助者としての役割などが挙げられている。

このうち特に③については、より具体的に「教師がある活動を楽しみ、集中して取り組む姿は、幼児を引き付けるものとなる。「先生のようにやってみよう」という幼児の思いが、事物との新たな出会い

を生み出したり、工夫して遊びに取り組んだりすることを促す」と記されている。一方、「環境を通して行う教育の特質」の項においても、「教師がモデルとして物的環境への関わりを示すことで、充実した環境との関わりが生まれてくる」と記されている<sup>13)</sup>。これらの記述をふまえると、教師が活動や遊びのモデルとしての役割を担うためには、教師自身がそれらの活動や遊びを経験し、活動や遊びに関する知識・技能を獲得していることと共に、それらの活動や遊びの意味や意義を理解していることが必要であると考えられる。

そして、保育士に求められる主要な知識及び技術<sup>14)</sup>として、①乳幼児期の子どもの発達に関する専門的知識を基に、子どもの発達を援助する知識及び技術、②子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術、③保育所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく知識及び技術、④子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術、⑤人間関係において適宜必要な援助をしていく関係構築の知識及び技術、⑥保護者等への相談、助言に関する知識及び技術 の6つがある（下線は筆者）。

保育者に求められる主要な「知識及び技術」は、保育者自身の生活経験を基に習得されていくものが多く、経験を通して学んだり、身に付けたりした知識や技術は、保育者の実感となって保育に生かすことができる考える。

そこで、本研究においては、保育者を目指し保育者養成課程に在籍する学生が、乳幼児期からこれまでに経験した遊びや自然体験、行事、生活体験等の実態について調査・分析する。本稿においては特に、3歳以上児の保育における領域「環境」において保育者に求められる知識及び技術との関係性について分析し、今後の保育者養成課程における授業改善の課題について検討する。

#### 1-2. 領域「環境」において保育者に求められる知識・技能

領域「環境」における「内容」について、幼稚園教育要領解説および保育所保育指針解説には資料1

のように示されており、このうち特に①～⑥の「内容」に関して、保育者に求められる知識・技能に関して次のように記されている。

#### 資料1 身近な環境との関わりに関する領域「環境」のねらい及び内容

幼稚園教育要領および保育所保育指針（3歳以上児の保育）には、「環境」領域として、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとするとする力を養う」ことが、ねらいの冒頭に記されている。続けて下記の「ねらい」「内容」が示されている。

##### 【ねらい】

- ① 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。
- ② 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。
- ③ 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。

##### 【内 容】

- ① 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- ② 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。
- ③ 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
- ④ 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。
- ⑤ 身近な動植物に親しみを持って接し、生命の尊さに気付く、いたわったり、大切にしたりする。
- ⑥ 日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。
- ⑦ 身近な物を大切にする。
- ⑧ 身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり関連付けたりしながら考えたり試したりして工夫して遊ぶ。
- ⑨ 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。
- ⑩ 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。
- ⑪ 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。
- ⑫ 幼稚園（保育所）内外の行事において国旗に親しむ。

保育者が構成する環境には、大きく〔自然に関すること〕〔動植物に関すること〕〔行事に関すること〕の3つがあるとされている。

これらのうち〔自然に関すること〕として、○身近な自然に触れる機会を多くする、○幼稚園・保育所内の自然環境を整備する、○地域の自然と触れ合う機会をつくる、○子どもの自然との出会いを見逃さない、○季節感のある遊びを取り入れる、○子どもが季節の変化に気付き、感じ取れるようにする、○子どもが四季折々の変化に触れることができるように、園外保育を計画する（四季折々の地域や家庭の伝統的な行事に触れられる機会をもつ）、○身の回りにある自然などの様々な事象に触れる機会を多くもつ、○自然を取り入れた遊びが子どもの興味や関心に基づいて十分に繰り返されるように援助する（子どもの自然などの身近な事象への関心が高まるようにする）が挙げられる。

一方、〔動植物に関すること〕としては、○親しみやすい動植物に触れる機会をもたせる、○動植物の世話をする（いたわったり、大切にしたりしようとする気持ちを育てる）、また〔行事に関すること〕としては、○保育者と一緒に行事に参加して、そのいわれやそこに込められている願いなどにも興味をもつことができるようにする、○地域の人との関わりを通して、自分たちの住む地域に親しみを感じることができる、が挙げられている。

そして保育者に求められる知識・技能について、「保育者は、子どもがこれらの環境に関わり、豊かな体験ができるよう、意図的・計画的に環境を構成することが大切である。」と記されている。すなわち、子どもの発達や、興味・関心をふまえ、自然や季節の変化に気付き、感じられる環境づくりと、それに関わる子どもへの適切な援助が、保育者に求められる知識・技能と言える。

## 2. 研究方法

短期大学（保育者養成2年課程）に在籍する1年生53名（男性1名、女性52名）対象に、令和2年7月、遊びや生活、行事等の経験と知識に関する質問紙調査を実施した。なお、対象とした短期大学1年生に在籍する25歳以上の社会人学生9名について

は、高校卒業後直ちに短期大学に入学した学生との間に経験差があると考えられるため、分析対象から除外することとした。加えて、経験および知識の有無に関する設問において無回答の学生4名についても分析対象から除外し、本研究における有効回答者数は40名となった（なお、経験等の時期（年齢）が無回答であった者については除外していない）。

質問紙調査項目は85項目であり、環境に関する項目カテゴリーとしては、[遊び][行事とくらし][食べ物][生き物][植物][うた][ことば][色][空・天気]の9つのカテゴリーに関する質問項目により、質問紙を構成した（表1）。質問項目の作成にあたっては、前出の栗原（2005）<sup>6)</sup>の研究において検討された幼児期の「遊び」の思い出のカテゴリー「遊具遊び、砂・泥遊び、鬼遊び、ごっこ遊び、造形的遊び、自然・水遊び、ゲーム、伝承遊び」も参考にしつつ、領域「環境」で取り扱う具体的な活動を選定した。

保育者としての勤務経験（6年）をもつ筆者が、幼稚園教諭として30年の経験を持つ研究協力者と共に、季節の遊びや行事において、幼児期に経験することが予想される内容と、保育者が子どもに伝えておきたい知識・技能の内容について、項目を洗い出した。それらの項目のうち、領域「環境」における内容①～⑥と⑧に該当する幼児期の経験内容であり、かつ一般的であると思われる内容について項目を選び出した。その後、選出しなかった項目について再度検討を加え、特に「生育した地域環境によって左右される経験（海での遊び、山菜取り など）」「生育した気候環境によって左右される経験（雪遊び など）」についても、今回の調査項目に加えることとした。なお、経験項目の洗い出しにおいては、保育における領域「環境」に関する遊びと環境についてまとめた保育専門書<sup>15)</sup>や、「親子で一緒に楽しく読む」ことをねらいとし小学校低学年期までを対象として刊行されている自然や季節に関する図鑑<sup>16)</sup>も参考にし、領域「環境」に関する幼少期の経験内容を、できるだけ包括的に調査項目に含めるよう努めた。

質問紙では、これら85項目の内容に関して、「これまでに経験したことがあるかどうか、もしくは知っているか」について尋ねるとともに、これまで

に経験したことがある（知っている）場合には、「それを一番はじめに経験した年齢」もしくは「それができるようになった（知った）年齢」についても、併せて尋ねた。

### 3. 結果と考察

#### 3-1. 経験の有無と経験した年齢

質問紙調査結果によると、質問項目のうち全員が「経験あり」と回答した項目は21項目となった。全員が「経験したことがある」と回答した内容は、[遊び]のカテゴリーでは、{シャボン玉、粘土、絵の具遊び、風船を口で膨らませる、お店屋さんごっこ、鬼遊び、けん玉、お手玉、子ども向け番組の視聴、フラフープ、積み木・ブロック、砂場・泥遊び、折り紙、あやとり}であった。また、[行事とくらし]のカテゴリーでは、{豆まき、包丁を使っの料理、ラジオ体操、お年寄りとの話}であった。その他、[植物]のカテゴリーでは「米や野菜を収穫したことがある」、[うた]のカテゴリーでは「楽器を演奏したことがある」、[ことば]のカテゴリーでは、「昔話を知っている」であった（表2）。

これらの遊びや活動は、折り紙、積み木、粘土など、季節を問わず、比較的いつでも場所を選ばずできるものと、幼稚園や保育所等における行事（豆まき、楽器演奏、ラジオ体操）、遊びや活動（お店屋さんごっこ、昔話、米や野菜の収穫、包丁で料理）での経験と捉えることができ、興味のある遊びや行事に参加したことで、学生たちが経験を得た内容と考えられる。

また、これらを一番はじめに経験した、もしくはできるようになった年齢については、{シャボン玉、粘土、鬼遊び、子ども向け番組の視聴、積み木・ブロック、砂場・泥遊び、折り紙}は、90%以上の者が「乳幼児期に経験した」と回答した（表3）。さらに詳細な経験年齢では、「砂場・泥遊び（2歳以降）」「子ども向け番組の視聴（0歳以降）」の2つを除いては3歳以降に多く、0～2歳（乳児期）での経験は0～1名であった。これらの遊びや活動の経験は、主に幼児期において、子どもの身の回りに用意された玩具・遊具などの物的環境に興味や関心を持ち、それらに自分から関わって繰り返し遊んだ



表1 遊びや生活、行事等の経験および知識に関する質問項目

分 類	質 問 項 目	分 類	質 問 項 目
遊び	工作でこいのぼりを作ったことがある	行事とくらし	ラジオ体操をしたことがある
遊び	シャボン玉遊びをしたことがある	行事とくらし	十二支（えと）がすべて言える
遊び	粘土遊びをしたことがある	行事とくらし	お年寄りの人と話をしたことがある
遊び	絵の具を使って絵を描いたり遊んだりしたことがある	行事とくらし	お年寄りの人と昔遊びをしたことがある
遊び	風船を口で膨らませたことがある	行事とくらし	ボランティアで清掃活動やゴミ拾いをしたことがある
遊び	山に登ったことやハイキングに行ったことがある	行事とくらし	地域の防災訓練に参加したことがある
遊び	海や川で泳いだことがある	行事とくらし	屋外でたき火をしたことがある
遊び	お店屋さんごっこをしたことがある	食べ物	「春」を感じる野菜や果物が3つ以上言える
遊び	落ち葉や木の実でおもちゃを作って遊んだことがある	食べ物	「夏」を感じる野菜や果物が3つ以上言える
遊び	工作で獅子舞を作ったことがある	食べ物	「秋」を感じる野菜や果物が3つ以上言える
遊び	ひもで三つ編みを作ることができる	食べ物	「冬」を感じる野菜や果物が3つ以上言える
遊び	人形劇を見たことがある	食べ物	焼き魚や煮魚一匹を箸を使って食べたことがある
遊び	ペープサートを作ったことがある	生き物	虫や水辺の生き物を家で飼育したことがある
遊び	鬼遊び（鬼ごっこ）をしたことがある	生き物	虫取り網で虫を捕まえたことがある
遊び	ビー玉やおはじきで遊んだことがある	生き物	捕まえた虫を手指でつかむことができる
遊び	けん玉で遊んだことがある	生き物	秋になく虫を3種類以上言える
遊び	凧あげをしたことがある	生き物	図鑑で植物や生き物について調べたことがある
遊び	お手玉で遊んだことがある	生き物	アミや竿を使って魚を捕まえたことがある
遊び	缶けりをして遊んだことがある	植 物	植物の観察をしたことがある
遊び	こままわしをして遊んだことがある	植 物	草花で押し花や色水遊びをしたことがある
遊び	NHK乳幼児向けTV番組「おかあさんといっしょ」や「いないいないばあ」を見たことがある	植 物	花の種をとったことがある
遊び	テレビゲームをして遊んだことがある	植 物	シロツメクサで冠を作ったりタンポポ笛を作って吹いたことがある
遊び	雪だるまやかまくらを作ったことがある	植 物	サツマイモのつるさしをしたことがある
遊び	お正月のあそび（はねつき、福笑い）をしたことがある	植 物	米ができるまでの過程を知っている
遊び	竹馬や缶ポックリに乗って遊んだことがある	植 物	野菜や花を育てたことがある
遊び	一輪車に乗って遊んだことがある	植 物	米や野菜を収穫したことがある
遊び	フラフープを回して遊んだことがある	植 物	つくしをとったことがある
遊び	積み木やブロック遊びをしたことがある	植 物	山菜をとったことがある
遊び	砂場遊びや泥遊びをしたことがある	植 物	芋ほりをしたことがある
遊び	すごろく遊びをしたことがある	植 物	落ち葉や木の実を拾い集めたことがある
遊び	折り紙あそびをしたことがある	うた	春の「季節や行事に関する歌」を3つ以上知っている
遊び	あやとり遊びをしたことがある	うた	夏の「季節や行事に関する歌」を3つ以上知っている
行事とくらし	住んでいる（住んでいた）地域のお祭りに参加したことがある	うた	秋の「季節や行事に関する歌」を3つ以上知っている
行事とくらし	獅子舞を操（あやつ）ったことがある	うた	冬の「季節や行事に関する歌」を3つ以上知っている
行事とくらし	春の七草をすべて言える	うた	わらべ歌を知っている
行事とくらし	七夕の笹飾りを作ったことがある	うた	楽器の生演奏を聞いたことがある
行事とくらし	月見だんごを作ったことがある	うた	楽器を演奏したことがある
行事とくらし	杵（きね）と臼（うす）を使って餅つきをしたことがある	ことば	昔話を知っている
行事とくらし	豆まきをしたことがある	ことば	絵本を読んで聞かせたことがある
行事とくらし	キャンプファイヤーをしたことがある	ことば	紙芝居を読んで聞かせたことがある
行事とくらし	年賀状や暑中見舞いの葉書を手書きで書いたことがある	色	虹の色がすべて言える
行事とくらし	包丁を使い、料理を作ったことがある	空・天気	夜空に星座を探したことがある
		空・天気	プラネタリウムで星座を見たことがある

表2 質問項目ごとの経験者数

分 類	No.	質 問 項 目	経験あり (人)	%
遊び	54	シャボン玉遊びをしたことがある	40	100
	55	粘土遊びをしたことがある	40	100
	56	絵の具を使って絵を描いたり遊んだりしたことがある	40	100
	57	風船を口で膨らませたことがある	40	100
	60	お店屋さんごっこをしたことがある	40	100
	66	鬼遊び（鬼ごっこ）をしたことがある	40	100
	68	けん玉で遊んだことがある	40	100
	70	お手玉で遊んだことがある	40	100
	74	NHK 乳幼児向けTV番組「おかあさんといっしょ」や「いないいないばあ」を見たことがある	40	100
	80	フラフープを回して遊んだことがある	40	100
	81	積み木やブロック遊びをしたことがある	40	100
	82	砂場遊びや泥遊びをしたことがある	40	100
	84	折り紙あそびをしたことがある	40	100
	85	あやとり遊びをしたことがある	40	100
行事とくらし	7	豆まきをしたことがある	40	100
	10	包丁を使い、料理を作ったことがある	40	100
	11	ラジオ体操をしたことがある	40	100
	13	お年寄りの人と話をしたことがある	40	100
植物	36	米や野菜を収穫したことがある	40	100
うた	24	楽器を演奏したことがある	40	100
ことば	25	昔話を知っている	40	100
遊び	59	海や川で泳いだことがある	39	97.5
	75	テレビゲームをして遊んだことがある	39	97.5
	76	雪だるまやかまくらを作ったことがある	39	97.5
	83	すごろく遊びをしたことがある	39	97.5
植物	29	植物の観察をしたことがある	39	97.5
遊び	63	ひもで三つ編みを作ることができる	38	95.0
	78	竹馬や缶ボックリに乗って遊んだことがある	38	95.0
行事とくらし	9	年賀状や暑中見舞いの葉書を手書きで書いたことがある	38	95.0
食べ物	50	焼き魚や煮魚一匹を箸を使って食べたことがある	38	95.0
植物	35	野菜や花を育てたことがある	38	95.0
	40	落ち葉や木の実を拾い集めたことがある	38	95.0
うた	23	楽器の生演奏を聞いたことがある	38	95.0
ことば	26	絵本を読んで聞かせたことがある	38	95.0
遊び	72	こままわしをして遊んだことがある	37	92.5
行事とくらし	4	七夕の笹飾りを作ったことがある	37	92.5
行事とくらし	1	住んでいる（住んでいた）地域のお祭りに参加したことがある	36	90.0
	14	お年寄りの人と昔遊びをしたことがある	36	90.0
	15	ボランティアで清掃活動やゴミ拾いをしたことがある	36	90.0
食べ物	47	「夏」を感じる野菜や果物が3つ以上言える	36	90.0
植物	39	芋ほりをしたことがある	36	90.0
遊び	67	ビー玉やおはじきで遊んだことがある	35	87.5
行事とくらし	6	杵（きね）と臼（うす）を使って餅つきをしたことがある	35	87.5
	8	キャンプファイヤーをしたことがある	35	87.5
空・天気	51	夜空に星座を探したことがある	35	87.5

分 類	No.	質 問 項 目	経験あり (人)	%
遊び	79	一輪車に乗って遊んだことがある	34	85.0
食べ物	48	「秋」を感じる野菜や果物が3つ以上言える	34	85.0
生き物	42	虫取り網で虫を捕まえたことがある	34	85.0
植物	30	草花で押し花や色水遊びをしたことがある	34	85.0
植物	31	花の種をとったことがある	33	82.5
遊び	58	山に登ったことやハイキングに行ったことがある	32	80.0
	69	凧あげをしたことがある	32	80.0
行事とくらし	12	十二支（えと）がすべて言える	32	80.0
食べ物	49	「冬」を感じる野菜や果物が3つ以上言える	32	80.0
遊び	61	落ち葉や木の実でおもちゃを作って遊んだことがある	31	77.5
	71	缶けりをして遊んだことがある	31	77.5
生き物	41	虫や水辺の生き物を家で飼育したことがある	31	77.5
ことば	27	紙芝居を読んで聞かせたことがある	31	77.5
空・天気	52	プラネタリウムで星座を見たことがある	31	77.5
食べ物	46	「春」を感じる野菜や果物が3つ以上言える	30	75.0
植物	37	つくしをとったことがある	30	75.0
うた	21	冬の「季節や行事に関する歌」を3つ以上知っている	30	75.0
遊び	77	お正月のあそび（はねつき、福笑い）をしたことがある	29	72.5
植物	34	米ができるまでの過程を知っている	28	70.0
遊び	53	工作でこいのぼりを作ったことがある	27	67.5
生き物	45	図鑑で植物や生き物について調べたことがある	27	67.5
うた	19	夏の「季節や行事に関する歌」を3つ以上知っている	27	67.5
	20	秋の「季節や行事に関する歌」を3つ以上知っている	27	67.5
生き物	73	アミや竿を使って魚を捕まえたことがある	26	65.0
うた	18	春の「季節や行事に関する歌」を3つ以上知っている	26	65.0
植物	32	シロツメクサで冠を作ったりタンポポ笛を作って吹いたことがある	22	55.0
遊び	64	人形劇を見たことがある	21	52.5
遊び	65	ペープサートを作ったことがある	20	50.0
生き物	43	捕まえた虫を手指でつかむことができる	20	50.0
うた	22	わらべ歌を知っている	20	50.0
行事とくらし	17	屋外でたき火をしたことがある	19	47.5
行事とくらし	16	地域の防災訓練に参加したことがある	18	45.0
色	28	虹の色がすべて言える	17	42.5
遊び	62	工作で獅子舞を作ったことがある	13	32.5
行事とくらし	5	月見だんごを作ったことがある	12	30.0
生き物	44	秋になく虫を3種類以上言える	12	30.0
植物	38	山菜をとったことがある	11	27.5
植物	33	サツマイモのつるさしをしたことがある	9	22.5
行事とくらし	2	獅子舞を操（あやつ）ったことがある	6	15.0
	3	春の七草をすべて言える	6	15.0

ことにより、経験を得たと思われる。

一方で、「お手玉、けん玉、フラフープ、あやとり、絵の具を使っての描画や遊び」は、経験した年齢を「乳幼児期」とした者が60～75%、「小学生頃」とした者が10～40%であった。これらの遊びや活動は、遊びを始めるにあたって、遊具や道具の扱い方や関わり方を知ることが必要であると同時に、子どもが周りからの刺激を受け、「やってみたい」「できるようにになりたい」という意欲をもつ、ある“きっかけ（動機づけ）”により始まる遊びであると考えられる。併せて、これらの経験内容に共通する特徴として、周囲の人（友だちや大人等）の様子を見て方法を学んだり、扱い方やコツを教わったりする必要のある遊びや活動であることや、技術を習得するために時間がかかったり、繰り返し練習することが必要となる遊びや活動であることが挙げられる。

そして、「包丁を使つての料理」「米や野菜の収穫」「風船を口で膨らませる」は、小学生以降の経験が半数以上となっていた。これらは、保育者や保護者が、特に意図して環境を構成することなくできる遊びや経験とは異なり、大人の関わりが必要な経験である。中でも、「料理」や「米・野菜の収穫」の経験においては、保育士や保護者等による意図的・計画的な環境づくりが欠かせないと言える。

次に9割以上の学生が「経験あり」と回答した項目については、以下のような結果となった。40名中37名（92.5%）～39名（97.5%）が「経験あり」と回答した項目は15項目であり、〔遊び〕のカテゴリーでは、〔海や川で泳ぐ、テレビゲーム、雪だるま・かまくら作り、すごろく、ひもで三つ編みづくり、竹馬・缶ボックリ、こままわし〕となった。〔植物〕のカテゴリーでは、〔植物の観察、野菜や花を

表3 「経験あり」100%の項目における経験時期【（ ）内は「経験あり」人数に占める割合（%）】

分 類	No.	質 問 項 目	経 験 時 期					経験あり (人)	%
			乳幼児期	小学生頃	中学・高校頃	短 大	無回答		
遊び	54	シャボン玉遊びをしたことがある	36 (90.0)	3 ( 7.5)	0	0	1 ( 2.5)	40	100
	55	粘土遊びをしたことがある	39 (97.5)	1 ( 2.5)	0	0	0	40	100
	56	絵の具を使って絵を描いたり遊んだりしたことがある	30 (75.0)	10 (25.0)	0	0	0	40	100
	57	風船を口で膨らませたことがある	13 (32.5)	24 (60.0)	3 ( 7.5)	0	0	40	100
	60	お店屋さんごっこをしたことがある	35 (87.5)	5 (12.5)	0	0	0	40	100
	66	鬼遊び（鬼ごっこ）をしたことがある	38 (95.0)	1 ( 2.5)	0	0	1 ( 2.5)	40	100
	68	けん玉で遊んだことがある	28 (70.0)	12 (30.0)	0	0	0	40	100
	70	お手玉で遊んだことがある	27 (67.5)	12 (30.0)	0	0	1 ( 2.5)	40	100
	74	NHK乳幼児向けTV番組「おかあさんといっしょ」や「いないいないばあ」を見たことがある	39 (97.6)	0	0	0	1 ( 2.5)	40	100
	80	フラフープを回して遊んだことがある	24 (60.0)	16 (40.0)	0	0	0	40	100
	81	積み木やブロック遊びをしたことがある	39 (97.5)	0	0	0	1 ( 2.5)	40	100
	82	砂場遊びや泥遊びをしたことがある	39 (97.5)	0	0	0	1 ( 2.5)	40	100
	84	折り紙あそびをしたことがある	38 (95.0)	2 ( 5.0)	0	0	0	40	100
	85	あやとり遊びをしたことがある	30 (75.0)	10 (25.0)	0	0	0	40	100
行事とくらし	7	豆まきをしたことがある	37 (92.5)	2 ( 5.0)	0	0	1 ( 2.5)	40	100
	10	包丁を使い、料理を作ったことがある	14 (35.0)	22 (55.0)	4 (10.0)	0	0	40	100
	11	ラジオ体操をしたことがある	28 (70.0)	11 (27.5)	0	0	1 ( 2.5)	40	100
	13	お年寄りの人と話をしたことがある	33 (82.5)	7 (17.5)	0	0	0	40	100
うた	24	楽器を演奏したことがある	24 (60.0)	13 (32.5)	3 ( 7.5)	0	0	40	100
ことば	25	昔話を知っている	37 (92.5)	3 ( 7.5)	0	0	0	40	100
植物	36	米や野菜を収穫したことがある	19 (45.0)	20 (50.0)	1 ( 2.5)	0	0	40	100



育てたことがある、落ち葉や木の実を拾い集めたことがある」、[行事とくらし]のカテゴリーでは、[年賀状や暑中見舞いの葉書を手書きで書いたことがある、七夕の笹飾りを作ったことがある]であった。また、[食べ物]のカテゴリーでは「焼き魚や煮魚一匹を箸を使って食べたことがある」、[うた]のカテゴリーでは「楽器の生演奏を聞いたことがある」、[ことば]のカテゴリーでは「絵本を読んで聞かせたことがある」であった。

一方、経験者が20名以下となった項目は13項目あり、「ペープサートを作ったことがある」「捕まえた虫を手指でつかむことができる」「わらべ歌を知っている」の3項目は20名(50.0%)、「屋外でたき火をしたことがある」は19名(47.5%)であった。また、「地域の防災訓練に参加したことがある」18名(45.0%)、「虹の色がすべて言える」17名(42.5%)、「工作で獅子舞を作ったことがある」13名(32.5%)、「月見だんごを作ったことがある」と「秋に鳴く虫を3種類以上言える」12名(30.0%)、「山菜をとったことがある」11名(27.5%)、「サツマイモのつるさしをしたことがある」9名(22.5%)、「獅子舞を操ったことがある」と「春の七草をすべて言える」6名(15.0%)であった。

「春の七草」「月見だんごづくり」「山菜採り」「サツマイモのつるさし」等は、一年の中で経験できる時期が短く、その時期を逃すと経験しづらいといっ

たことも考えられる。また、「わらべ歌」は子どもの耳になじみやすい音の響きや、ゆったりとした調べに、安らぎが感じられ、保育の中に取り入れられることが多いが、家庭等の日常生活においては触れる機会が少ないようであった。

また、経験者が少ない項目の経験時期を見ると、大半の項目で、乳幼児期での経験は半数に満たない(表4)。また、「ペープサートを作ったことがある」を除いて、小学生頃までに経験がない場合は、その後も経験する機会が殆ど無い傾向が認められる。

さらに、「人形劇を見たことがある(未経験者19名、47.5%)」「プラネタリウムで星座を見たことがある(未経験者9名、22.5%)」、「お正月のあそび(はねつき、福笑い)をしたことがある(未経験者11名、27.5%)」等も未経験者が全体の約20～50%を占め、「日常の生活から少し離れた特別な経験」や「その時期ならではの経験」については、幼少期に経験しづらいことが明らかになった。

### 3-2. 領域「環境」において保育者に求められる知識及び技術との関係性

領域「環境」において、保育者に求められる知識及び技術<sup>2)</sup>として、○子どもの自然との出会いを見逃さない、○身の回りにある自然などの様々な事象に触れる機会を多くもつことが挙げられるが、本研究において経験者が半数以下との結果となった「虹

表4 「経験あり」が50%以下の項目における経験時期【( )内は「経験あり」人数に占める割合(%)】

分類	No.	質問項目	経験時期					経験あり(人)	%
			乳幼児期	小学生頃	中学・高校頃	短大	無回答		
遊び	65	ペープサートを作ったことがある	1 (5.0)	3 (15.0)	10 (50.0)	2 (10.0)	4 (20.0)	20	50.0
生き物	43	捕まえた虫を手指でつかむことができる	15 (75.0)	5 (25.0)	0	0	0	20	50.0
うた	22	わらべ歌を知っている	8 (40.0)	9 (45.0)	1 (5.0)	0	2 (10.0)	20	50.0
行事とくらし	17	屋外でたき火をしたことがある	4 (21.1)	15 (78.9)	0	0	0	19	47.5
行事とくらし	16	地域の防災訓練に参加したことがある	5 (27.8)	10 (55.6)	1 (5.6)	0	2 (11.1)	18	45.0
色	28	虹の色がすべて言える	4 (23.5)	10 (58.8)	3 (17.6)	0	0	17	42.5
遊び	62	工作で獅子舞を作ったことがある	7 (53.8)	2 (15.4)	1 (7.7)	0	3 (23.1)	13	32.5
行事とくらし	5	月見だんごを作ったことがある	7 (58.3)	4 (33.3)	1 (8.3)	0	0	12	30.0
生き物	44	秋になく虫を3種類以上言える	4 (33.3)	8 (66.7)	0	0	0	12	30.0
植物	38	山菜をとったことがある	4 (36.4)	7 (63.6)	0	0	0	11	27.5
植物	33	サツマイモのつるさしをしたことがある	4 (44.4)	5 (55.6)	0	0	0	9	22.5
行事とくらし	2	獅子舞を操(あやつ)ったことがある	2 (33.3)	3 (50.5)	1 (16.7)	0	0	6	15.0
	3	春の七草をすべて言える	2 (33.3)	2 (33.3)	1 (16.7)	0	1 (16.7)	6	15.0

の色」や「秋に鳴く虫」など、子どもが出会った自然の色や音色に感動したり、その美しさや不思議さを感じたりできる場面を、保育者が季節やタイミングを逃さず捉え、関わることが望ましい。

また、「押し花・色水遊び」や「落ち葉や木の実を使った遊び」等のように、○季節感や自然を取り入れた遊びが、子どもの興味や関心に基づいて十分繰り返されるように援助することが求められる。そのためには、保育者を目指す学生自身が、身近に季節感を感じられる野菜や果物、植物の変化などに目を向け、生活の中で、四季の変化を感じる経験が必要であろう。

上記の他に、「シロツメクサで冠を作ったりタンポポ笛を作って吹いたりしたことがある（未経験者18名、45.0%）」「落ち葉や木の実でおもちゃを作って遊んだことがある（未経験者9名、22.5%）」「草花で押し花や色水遊びをしたことがある（未経験者7名、17.5%）」「花の種をとったことがある（未経験者7名、17.5%）」のように、居住地域の自然環境との関係は大きいと考えられるが、自然に関わる経験、特に、身の回りにある自然（物）を取り入れた遊びの経験が少ない状況が確認された。これらの活動も、子どもだけで行うには難しさがあり、保育者や周囲の大人が、必要な材料や道具の準備や、作り方・遊び方の手順・方法の提示、適切な援助等、見通しをもった計画と実践が必要となる遊びや活動と言える。

また、「図鑑で植物や生き物について調べたことがある」は未経験者13名（32.5%）であり、不思議に感じたことや疑問に思ったことを探求しようとする態度や、気づきや発見の喜びを感じる経験は、幼児期の貴重な経験となるばかりでなく、続く学齢期における探究的な活動の素地を形成するために大切な経験と考えられる。

#### 4. 今後の課題

本研究の結果より、今後の保育士（者）養成課程における「環境」を取り扱う授業については、これまでに行ってきた「保育や子どもに関する知識」や「保育に必要な技能」を身につけることに加え、学生が自分の身の回りの事象に目を向け、身近な自然

や季節の変化、地域の伝統行事などに関心をもって関わるができるような課題を取り扱うなどの授業改善が必要と考える。具体的には、自分の経験を振り返りつつ、保育者としての意識をもちながら、未経験の遊びや活動を学生に経験させるとともに、それらの遊びや活動によって得られた素朴な気付きや発見と併せて、遊びの楽しさやよさについて、学生相互に省察し合いながら整理・分析する課題に取り組ませるなどの演習活動が考えられる。そのような演習活動によって、学生が環境に関する保育活動を構想する際、学生自身が遊びや活動の経験から得られた実感に伴う「遊びや活動の意味・意義」をふまえながら、子どもの活動と活動の繋がりや将来の生活の中で生かされるものとなる視点をもって、保育活動における環境構成や支援（言葉かけ等）について考えようとする学生の姿が期待できる。

今後、本調査結果をもとに、保育士（者）養成課程における「環境」を扱う授業改善・演習活動の改善を試み、保育者自身の遊びや活動の経験を保育活動づくりに繋げることができる、保育者の基礎的な資質・能力の養成に取り組むたいと考える。

#### 参考・引用文献

- 1) 松下由美子・松下幸司（2018）保育者養成における授業方法の改善に関する研究Ⅰ，香川短期大学紀要，第46巻，29-38.
- 2) 松下由美子・松下幸司（2020）保育者養成における授業方法の改善に関する研究Ⅱ，香川短期大学紀要，第48巻，61-68.
- 3) 渡部美佳・大澤力・小林辰至（2018）保育者養成大学の学生に対する身近な昆虫との関わりに関する実態調査 ―昆虫に対する理解度と体験に着目して―，生物教育，第59巻第3号，173-179.
- 4) 上原隆司（2020）飼育経験と苦手意識が保育学生の飼育したい生き物の選択に与える影響，名古屋短期大学研究紀要，第58号，49-57.
- 5) 及川留美・岩崎淳子・春日保人・粕谷宣正・金玖志（2019）保育者養成校に通う学生の「地域」とのかかわりの実態 ―保育者養成における地域型保育教材の活用に関する基礎的研究として―，東京未来大学研究紀要，vol.13，151-156.

- 6) 栗原泰子・野尻裕子 (2005) 原風景としての幼児期 ―保育者養成課程学生の思い出し記憶から―, 川村学園女子大学研究紀要, 第16巻第2号, 13-21.
- 7) 青山裕美 (2020) 保育内容「環境」の体験による学びに関する研究 ―泥んこ遊びを通して―, 名古屋短期大学研究紀要, 第58号, 35-48.
- 8) 片山雅男 (2019) 保育内容・環境における数と量の取り扱いの指導, 夙川学院短期大学 教育実践研究紀要, 第13号, 21-32.
- 9) 土居晶子 (2018) 保育内容「環境」と小学校教育課程につながる保育者養成授業プログラムの検討 (1) ～子どもの数量・図形, 文字等への関心・感覚～, 共栄大学教育学部研究紀要, 第2号, 95-108.
- 10) 文部科学省 (2018) 幼稚園教育要領, フレーベル館.
- 11) 厚生労働省 (2018) 保育所保育指針解説, フレーベル館.
- 12) 文部科学省 (2018) 幼稚園教育要領解説, フレーベル館, 116-117.
- 13) 前掲書12), 31-32.
- 14) 厚生労働省 (2018) 保育所保育指針解説, フレーベル館, p.17-18.
- 15) 神蔵幸子・中川秋美編著 (2018) 保育を支える生活の基礎～豊かな環境のつくり手として～, 萌文書林.
- 16) 長谷川康男監修 (2019) きせつの図鑑, 小学館.

